

●地場産業の振興について

団員 岡 雄也

カリフォルニア州の州都でもあるサクラメント市は、近年クラフトビール業界で注目を集めている。この項ではクラフトビールを通じた地場産業の振興について報告する。

1 視察先概要

サクラメント市には、市内中心部に約20社、郊外を含めると約80社の大小のクラフトビール醸造所がある。今回視察で訪れた New Helvetia Brewing 社は少人数で経営するスタイルの



(レストラン併設の醸造所)

醸造所でありながら、常時12種類から15種類のビールを製造販売し、レストランも併設していることから醸造所の見学から試飲・食事まで行うことができる。



(タップ数が15を超えるレストラン)

原料の調達先は流通システムの合理化もあり、国内各地から最適なものを選び使用しているが、ホップの一部は地元産も使用している。アルコール度数は5%から9%、一般的なビールからコーヒーや季節のフルーツを用いたビールなどバリエーションも豊富で市内のレストラン

やショッピングストアに卸している。ちなみに社名の由来は、19世紀のサクラメント地域の名前を参考にしたとのこと。

2 地場産業としてのクラフトビール

サクラメントのクラフトビール業界は横連携を大切にしているとのこと。行政との関わりではなく、醸造所同士が連携し、様々な仕掛けで購買意欲を高めている。まずは

「Sacramento Area Brewers Guild」サクラメント地域の醸造各社が組織した組合が中心



(クラフトビール醸造スペース)

的な役割を担っている。サクラメントをカリフォルニアのクラフトビール市場および世界クラスのビールにすることを目指し、地域に根差した醸造所をサポートし、教育や商品開発などメンバー間での情報交換も行っているとのこと。組合としては大きく3つの活動を行っている。一つ目は、季節ごとに開催されるビールイベント。オクトーバーフェストをはじめ世界各国のビールに尊敬と敬意を表しながら年間を通して多様なイベントが開催され、クラフトビールのおいしさを体感する機会を提供している。二つ目は「Sacramento Brewery Passport」の発行。市内に点在するビール醸造所のうち、どこを訪れたことがあるのか、未開拓のお店はどこか把握ができる、スタンプラリー方式のパスポートの発行をしている。スタンプの個数に応じた景品も用意され、新規開拓の気分で新たなビールとの出会いができるとのこと。三つ目は、「Sac Brew Bike」の運行。今回の視察では乗車する機会はなかったが、15人乗りで机も

付いたパーティー仕様のバイクに乗車し、市内を観光しながらビールを飲むというアクティビティ。こうした取り組みを通して、クラフトビールが身近な存在であることを認識させている。

3 結び

視察先である New Helvetia Brewing 社や松山サクラメント姉妹都市協会関係者へのヒアリングにおいては、クラフトビールは地域の農産物を活用したユニークなフレーバーのビールも多く、地場産業の振興に大きく寄与していることがわかった。小規模ながらも熱心な固定客を持つ醸造所が数多く存在しており、あの店のこれが好きだ！と自信を持ってお勧めする様子に感銘を受けた。醸造所見学が観光コンテンツにもなっており、ビールをこよなく愛する人々を引き寄せる環境が整っていると感じた。商品を瓶で出荷をした場合、回収が困難であるため、日本でみられるような回収し洗浄、再利用ではなく、缶での出荷が主流であるとのこと。環境面での配慮ではなく、小規模の醸造所でも導入しやすいことが要因とのことであった。一方で小規模施設のため、大量消費には向かず出荷先も限定的と生産力と供給力については課題があるとの声もあった。



(タップの裏側 樽詰めされたビールの数々)

るため、日本でみられるような

回収し洗浄、再利用ではなく、缶での出荷が主流であるとのこと。環境面での配慮ではなく、小規模の醸造所でも導入しやすいことが要因とのことであった。一方で小規模施設のため、大量消費には向かず出荷先も限定的と生産力と供給力については課題があるとの声もあった。

海外都市行政視察前に、事前学習として訪れた関西の老舗クラフトビール醸造所では、行政に頼らず、全国の仲間とともにイベントを企画し、各地で開催されるビール祭への出店を行いながら、ファンを増やしているとの話をお聞き

した。本市醸造所においてもサクラメント市の醸造所にならい、クラフトビールを中心とした食のイベントを開催し、一人でも多くの方に魅力を知っていただきたいと考える。

クラフトビールは装置産業でありながらも、比較的参画しやすいとされ、松山市内でも新規事業として取り組みが広がっている。しかしながら、市内でもお城下マルシェやえひめ・まつやま産業まつりへの出店などでクラフトビールを目にする機会はあるが、商品価格自体も高くまだまだ限定的である。雇用の創出もさることながら、交流人口の拡大に寄与する観光資源の一つになり得ると考える。体験型観光として見学や試飲のほか日本酒と同じように風土や文化を伝えられるコンテンツであると考え。松山での認知度が向上すれば関係人口の拡大にもつながり、松山圏域外での広報や消費にもつながるのではないかと考える。

クラフトビールによる地場産業としての振興は、体験観光コンテンツとして魅力ある事業であると考え。